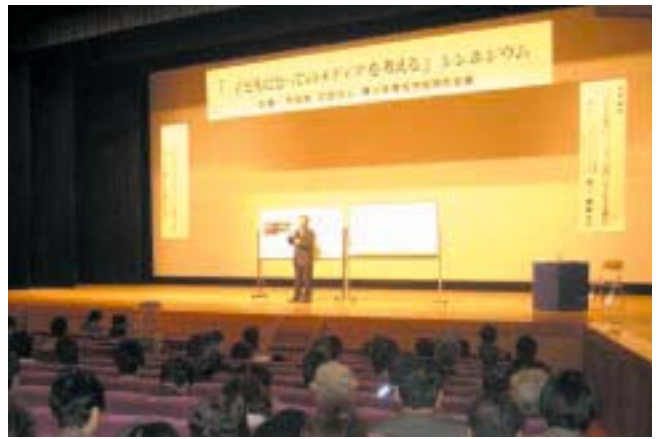


「子どもにとってのメディアを考える」シンポジウムを開催しました

テレビやビデオ、テレビゲームは子どもの知性や感性を豊かにする反面、行き過ぎた利用は、心身の健康に様々な悪影響を及ぼす恐れがあることが指摘されています。

平成18年度新たに、乳幼児や児童を持つ家庭の親や子育てを支援する大人たちが一堂に会した「子どもにとってのメディアを考える」シンポジウムを青少年育成茨城県民会議と茨城県が共催して平成18年12月10日(日)大洗文化センターで開催しました。

NPO法人子どもとメディア代表理事の清川輝基先生の「子どもが危ない!“メディア漬け”が子どもを蝕む」と題した基調講演に続いて、「子どもにとってのメディアを考える」をテーマに茨城キリスト教大学教授の安藤博先生がコーディネーターとなりパネルディスカッションを行いました。パネリストには小学校低学年児童の保護者、保育士、「毎週土曜日はノーテレビデー」を実践している親子、県立子ども福祉医療センター副センター長の家島厚先生がなり、多くの意見を聞くことができました。



清川輝基先生の基調講演

530名の参加者からは、「メディアとの接触時間を減らし、親子のコミュニケーションの時間を増やしたい。」「保護者に参観や懇談会等を通じ、今回学んだことを伝えていきたい。」「メディアを子育て支援の柱として育成活動を進めたい。」といった多くの声が寄せられました。

「親が変われば、子どもも変わる」運動モデル活動に取り組みました

家庭の親や大人には、青少年のよき手本となるようその実践が求められています。

青少年育成茨城県民会議は、家庭の親に焦点を当て、平成11年度から「親が変われば、子どもも変わる」運動に取り組んでいます。

平成18年度も、この運動の一層の推進を図るために、家庭の親一人ひとりが子育てについての意識を新にし、その実践を促すため、乳幼児のいる家庭の親に対し働きかけを行う団体、グループを広く公募し、応募のあった多くの中から6つの団体、グループを指定してモデル活動に取り組んでいただきました。この指定団体、グループは、地域の多くの団体、グループ、行政機関、地域の大人たちと連携、協働してモデル活動に取り組みされました。

団体名 こあらくらぶ(水戸市)

活動内容
・動植物など自然とのふれあいを進める活動
・子どもとテレビ、ビデオとの付き合い方を考える啓発活動
・製作活動を通しての親子ふれあい活動

団体名 日立市オパール会(日立市)

活動内容
・家庭でできる体力遊び、リズム体操を進める活動
・語り聞かせを進める活動
・食育を進める活動

団体名 土浦市更生保護女性会(土浦市)

活動内容
・子どもとテレビ、ビデオとの付き合い方を考える啓発活動
・創作劇「カエルの家族」を通しての基本的生活習慣づくりを進める活動

・健全な体と心を育む活動

歯に関する指導、親子での食事体験、親子体操

団体名 古河市地域女性団体連絡会(古河市)

活動内容
・身近な生活行事や生活の知恵を伝える活動と子育て支援活動
・屋外での親子ふれあい活動
・読み聞かせを進める活動

団体名 NPO法人うしく里山の会そばプロジェクト(牛久市)

活動内容
・自然体験活動と親子で達成感を味わう活動
鳴く虫を育てる、里いもの収穫と収穫祭、そばの育成とそば打ち

団体名 境町子育てネットワークSkip(境町)

活動内容
・親子遊びを進める活動
・人と人とのつながりを伝える活動



楽しいな！親子遊び

モデル活動事例集を差し上げます。